

# 「小矢部市新水道ビジョン」概要版

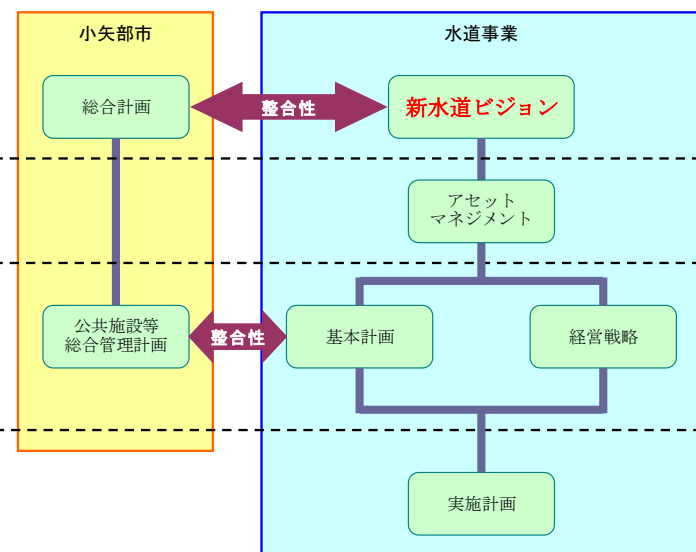
## 1. 「小矢部市新水道ビジョン」策定の背景

近年、水道事業を取り巻く環境は刻々と進んでおり、人口減少が予測される中での安定的な運営、さらには災害時における水道施設の耐震化など、多くの課題が山積しています。

小矢部市においては、2010年に策定した「小矢部市水道ビジョン」から10年が経過しているため、厚生労働省の「新水道ビジョン」が示す「安全」「強靱」「持続」の3つの視点から新たな「小矢部市新水道ビジョン」を策定し、市民の皆様へ安全な水道水を安定供給できるよう、経営基盤の強化を図ることとしました。

新水道ビジョンは、水道に関する各種計画の最上位に位置し、新水道ビジョンで定めた基本理念に従い、各種事業を展開していきます。

▼「小矢部市新水道ビジョン」の位置付け



計画期間 2021年度～2030年度

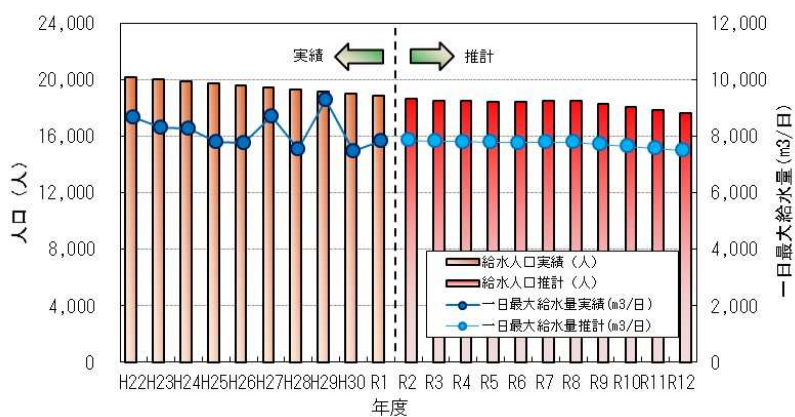
## 2. 小矢部市水道事業の事業環境

本市給水人口及び配水量は、年々減少しており、将来も引き続いて減少していくと予測されます。

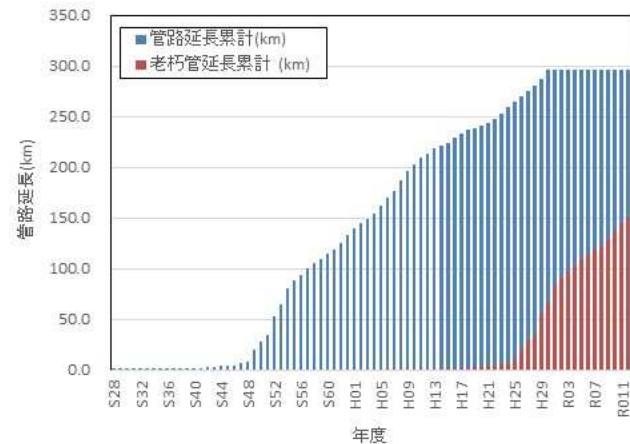
水道施設については老朽化が進行しており、中でも東部管理所、桜町配水池は計画期間中に法定耐用年数である60年を超えることから、財政面を考慮して更新のタイミングを図る必要があります。管路についても、高度経済成長期に布設した、法定耐用年数である40年を超えている管路は現在、全管路の約28%を占めますが、布設替えしなかった場合、2030年度に約48%まで増加するので、管路は継続して更新していく必要があります。

以上より、人口及び水量の減少に伴い、料金収入についても減少が見込まれるため、更新需要のために必要な資金を確保する必要があります。

▼小矢部市の給水人口及び配水量の予測



▼管路の経年化率の経時変化



## 3. 小矢部市水道事業の主な課題

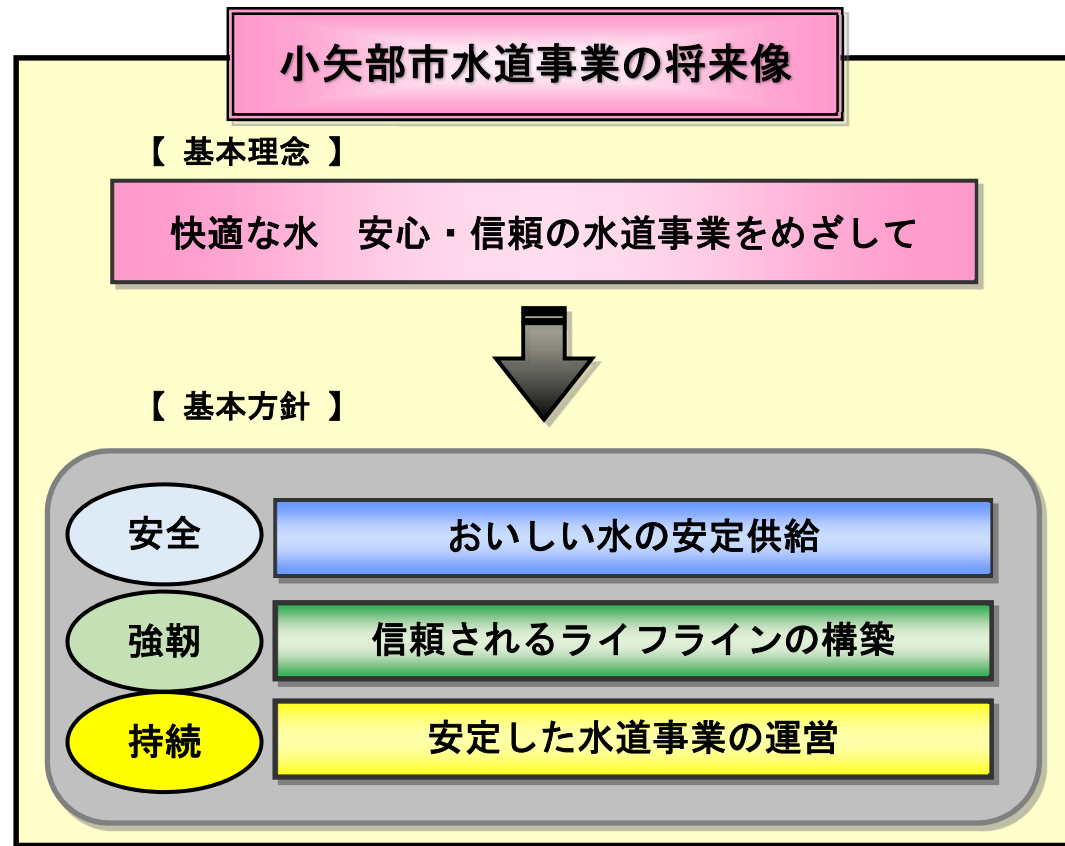
前回ビジョンにおいて掲げた施策の進捗状況や水道事業の環境変化により新たに生まれた課題を整理すると、現在の小矢部市水道事業の主な課題は以下のとおりとなります。

▼小矢部市水道事業の主な課題

| 項目 | 評価   |   |  |
|----|--|---|--|
| 安全 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 第三次拡張事業による拡張した区域の水質及び水圧を適正に管理する必要があります。</li> <li>▶ 水道水の安全性をより一層高めるために、水安全計画を策定する必要があります。</li> <li>▶ いまだ鉛給水管が残存しているため、計画的に更新していくことが必要であります。</li> <li>▶ 水源は1井のみなので、維持管理を適切に行う必要があります。</li> <li>▶ 機械・電気設備の多くは、法定耐用年数を超過しているため、計画的に更新する必要があります。</li> <li>▶ 管路施設の法定耐用年数を超過する割合が年々増加しているため、計画的に管路を更新する必要があります。</li> <li>▶ 貯水槽水道や指定給水装置工事業者に適切に指導していく必要があります。</li> </ul> |   |  |
|    | 強靱   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施設（水源、ポンプ場、配水池）の耐震化率が低いため、耐震化を進める必要があります。</li> <li>▶ 今後も管路の耐震化率の向上を目指す必要があります。</li> <li>▶ 金屋本江第2水源の応急給水拠点化を検討する必要があります。</li> <li>▶ 収容避難所などを給水拠点に設定する必要があります。</li> <li>▶ 災害用のための資機材を確保する必要があります。</li> <li>▶ 加圧所に自家発電設備の設置を検討する必要があります。</li> <li>▶ 計画的に研修に参加し、技術力の向上を図る必要があります。</li> <li>▶ 緊急時に備えて平常時から民間との連携を図る必要があります。</li> <li>▶ 施設台帳システムを導入する必要があります。</li> </ul> |  |
|    |  | 持続  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 水道事業経営が厳しい状況であるため、経営戦略に基づいて事業経営を行っていく必要があります。</li> <li>▶ 漏水調査や管路補修を計画的に行い、有収率の向上に努める必要があります。</li> <li>▶ 県水の受水単価や協定水量について、定期的に見直す必要があります。</li> <li>▶ 施設の更新時には需要量に応じた施設能力にする必要があります。</li> <li>▶ 外部委託の拡大は現在考えていないですが、将来的には検討する必要があります。</li> <li>▶ 迅速かつ的確な対応や窓口サービスの向上を目指す必要があります。</li> <li>▶ 省エネルギー型設備導入を継続的に推進する必要があります。</li> <li>▶ 建設副産物の再利用を推進する必要があります。</li> </ul> |

## 4. 「小矢部市新水道ビジョン」の将来像と実現に向けた施策

小矢部市水道事業では、以下に示す基本理念と基本方針を掲げ、その将来像を実現するために以下の施策を設定します。



### 「安全」の具体的施策

#### 1. 水質管理の強化

今後も、今まで以上にお客様が安心して利用できる水道水を供給できるように以下の施策を実施します。

- ① 第三次拡張事業に伴う水質及び水圧の適正化
- ② 水安全計画の策定と積極的運用
- ③ 鉛給水管の解消の推進
- ④ 自己水の保全

#### 2. 老朽化施設の更新

お客様が安心して利用できる水道水を安全に届けるため、施設や管路を適切に維持管理するために以下の施策を実施します。

- ① 施設整備計画の策定と計画的更新
- ② 管路整備計画の策定と計画的更新

#### 3. 給水装置などの適正管理

給水装置工事の不適切施工の防止、貯水槽水道所有者への指導を強化するために以下の施策を実施します。

- ① 給水装置工事の指導強化
- ② 貯水槽水道の指導強化

### 「強靱」の具体的施策

#### 1. 災害対策の強化

小矢部市水道事業において、施設や管路の耐震化率が低く、被災時の対策が十分ではありませんでしたので、今回ビジョンでは災害対策を重点的に強化することとし、以下の施策を実施します。

- ① 水道施設の耐震化
- ② 主要管路の耐震化
- ③ 水道施設の応急給水拠点化
- ④ 給水拠点の確保
- ⑤ 応急資機材の確保
- ⑥ 停電を想定した自家発電設備の設置検討

#### 2. 維持管理体制の強化

迅速かつ的確な対応、災害に備えての円滑な復旧作業ができるように以下の施策を実施します。

- ① 職員の能力向上
- ② 非常時における民間との連携強化
- ③ 施設台帳システムの導入

### 「持続」の具体的施策

#### 1. 経営基盤の強化

事業収支のバランスを取り健全な経営を維持していく必要があり、以下の施策を実施します。

- ① 水道事業経営戦略の積極的な運用
- ② 有収率の向上

#### 2. コスト縮減の検討

料金収入が減少していく中、計画的な事業運営を行いコスト縮減の検討をするために以下の施策を実施します。

- ① 県水受水費・受水量の見直し
- ② 水道施設のダウンサイジング
- ③ 外部委託の拡大

#### 3. サービスの向上

お客様のライフスタイルの変化に伴い、サービス向上を目指すために以下の施策を実施します。

- ① 迅速かつ的確な対応や窓口サービスの向上

#### 4. 環境への配慮

環境に配慮した水道事業を目指すため、以下の施策を実施します。

- ① 省エネルギー型設備の導入推進
- ② 建設副産物の再利用